



診察室の午後

白浜はまゆう病院
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

するときれいになった。精密にして堅牢、すっきりと製作されており見ていて気持ちがよい。パステル調の塗装も美しく、どこか詩情が漂う。

小学校3年生の時、父がた。わずかなコレクション電気機関車の模型を買ってきてくれた。線路の幅は32ミで、線路をつなげると1周の円になった。夢のようだった。父にとってはかなりの出費だっただろう。以後、レールの幅が16・5ミの小さな模型に転向し、お小遣いをためては、車輪や台車やモーターを買ってき

日本でも、敗戦後、進駐軍のマニア向けに手作りでアメリカ型の大きな蒸気機関車の模型を製作していた伝統があり、質の良い鉄道模型が作られてきた。ヨーロッパの機関車の模型も作られ、現地の愛好家向けに輸出され高い評価を得た。「神の手を持つ」と評された名人もいた。しかし19

て、自分で
コッコツと
電車の模型
を作った。

<55>「ロンバルディー」

車体はボール紙と木である。父と一緒に殺虫剤の噴霧器を使ってラッカーを吹き付けて塗装をしたこともあった。

縮尺は43・5分の1と模型としては大きい。年に1車種、限定50〜100台の製作で、二度と同じ車種は作らない。その品質、性能、

80年代を最盛期として日本には職人さんがいなくな

中学生になると、真ちゅう板を糸のこで切り出し、はんだ付けをして金属製の蒸気機関車の模型を作った。社会人になってからは忙しくて模型製作からは遠ざかってしまったが、時たま気に入った模型を購入して、1ミくらいの線路を往復させたり眺めたりしてい

最近、中古でロンバルディーの模型を手に入れることができた。フランスのお呪縛されるなかで、残念にも消えゆくものがある。しかし、それらの一部は、心ある人の手から手へと受け

私には職人さんや日作った模型が好きである。人々の興味の対象が変わるとともに、効率重視、利益優先という経済原則から導きだされる単一な価値観に

れを綿棒で拭き取って注油

体を拭き、車輪や台車の汚れを綿棒で拭き取って注油

継がれていくのである。